

## 知られざるモロッコの魅力

独立行政法人 国際協力機構 モロッコ事務所長 伊藤 隆司

---

モロッコと聞いて皆さんは何を思い浮かべられるでしょうか。最近では昨年のサッカーワールドカップでベルギー、スペイン、ポルトガルを次々に破りベスト4に進出した快進撃は鮮烈でした。その他にはイスラムの国、タジン鍋、砂漠、最近日本でも女性に人気のアルガンオイル。一般に思い浮かぶのはそんなところでしょうか。そこで今日は閑話休題、日本であまり広く知られていないこの国のいくつかの姿をご紹介します。

### 1. アトラスのライオン

「アトラスのライオン：Lions de l'Atlas」とは国の内陸部を南北に走るアトラス山脈にちなんだサッカーのナショナルチームの愛称です。但しライオンはサッカー場だけにいるわけではありません。今や北アフリカ地域において経済的に頭一つ抜けてつあるこの国そのものが一匹のライオンと言ってもよいでしょう。この国の近年の発展は90年代半ばからこの国を知る私にとっては非常に感慨深いものがあります。というのも、その当時モロッコはこの地域で一番「いけていない」国といっても過言ではありませんでした。当時の北アフリカは強い政治体制の下、どの国も政治・社会情勢は安定しており、周囲は産油国や中東の政治大国ばかり。一人当たりのGDPで見てもそうした国々の半分から3分の2程度であったと記憶しています。ところが2011年の「アラブの春」に際していち早く国内の危機を収束して安定した経済成長を続け、今や一人あたりGDPは4,000ドルを伺わんとする水準に達し、これはその他の北アフリカ諸国とほぼ横一線、むしろ凌駕せんとする勢いがあります。EUの巨大市場を裏庭に抱え、積極的に自動車、航空機産業等を誘致し、地中海に面したタンジェ港は今や地中海有数の港として知られ、アフリカ大陸で唯一高速鉄道が走り、主要都市は総延長2000km弱の高速道路ネットワークでつながられています。過去20年、北アフリカでクーデターの様な大きな政治的混乱もなく、二けたのインフレを記録したこともないのはこの国だけのはずです。治安や衛生状況も一般には非常によく（大きな観光地での窃盗、すり被害は時々聞きますが、それはどこの国でもあることでしょう）、ラバト、カサブランカ、タンジェのような外国人が多く住む街には欧米系の学校も数多くあり、居住環境も良好です。日本の企業関係の方々はこの国はもっと注目される価値はあ

ると考えています。



タンジェの港。地中海の一大物流拠点。



沿岸部を走る TGV。

## 2. 海の国

この国の沿岸部の人たちはよく魚を食べます。大型スーパーや市場には魚屋が軒を連ね、タイ、スズキ、イワシ、アジ、等々、日本でもよく食べる魚がずらりと並び、一般に鮮度もよいのでお刺身で食べられます。タジン料理には魚肉ボールやタコを入れたものもあります。特に注目はイワシ。どの魚屋でも安くふんだんに（1キロ200円ぐらい）売っており、私は当初「貧者の食べ物」なのかなと思っていたのですが、裕福な人でもイワシ料理の美味しさを語る人が結構いて、沿岸部のモロッコ人にとってのソウルフードであると知った次第。1年ほど前に沿岸部のリゾート地に車で旅行した際に、途中の小さな町の食堂で煙をモクモク上げてイワシを焼いていました。思わず車を止め、イワシの塩焼きをミントティーと共にたらふく食べて20ディルハム（300円弱）。日本人にとっては満足感この上なしでした。

またこの国はサーフィンのようなマリンスポーツの人气が結構あります。特に大西洋岸にはいい波が来るようです。東京五輪直前の最終調整をこの国で行っていた日本人メダリストもいると聞いています。首都ラバトも海に面しており、岩でゴツゴツした海岸も多いですが砂浜もあり、サーフボードのレンタルやレッスンを提供する店なども出ていて若い人を中心に多くの人々がサーフィンを楽しむ姿が見られます。沿岸部のリゾート地に行くと、どこまで見渡しても続く砂浜の海岸などもあり、大西洋に沈む夕日には心を奪われるものがあります。夏休みにはヨーロッパからの観光客に加え、家族連れで海水浴を楽しむ地元の人たちの姿も多く見かけます。

モロッコがここまで海と近い関係にあるとは今回駐在するまで私も実感がなかったのですが、考えてみれば当たり前。国の北側と西側はそれぞれ地中海と大西洋に面しているのですから。



首都ラバトの市場に並ぶ鮮魚



エサウイラの海岸

### 3. 3つの世界

私見ですがモロッコは地理的・文化的に「3つの世界」に属しています。一つはイスラム世界。因みにモロッコは近世イスラム世界の雄であるオスマン朝の圧力をはねのけ独立を保った誇り高い歴史を持っています。二つ目はアフリカ大陸の一角。特に現国王が1999年に即位して以来、アフリカ諸国との政治的・経済的つながりの強化を進めています。欧州市場へのゲートウェイであるとともに、アフリカ諸国へのゲートウェイとしても近年注目を集めるようになってきています。三つ目は地中海世界。私にはこのイメージが一番ぴったりきます。時々、当地に投資を考えられている日本企業の方々とお話をする機会があるのですが、多くの方がイスラム世界かアフリカの一部というイメージを強く持っていらっしゃるようで、私が地中海世界という言葉を出すと目から鱗が落ちたような表情をされる方もいらっしゃいます。特に首都のラバト以北は気候もそうですが、植生も地中海対岸の南欧諸国と非常に似ており、松やコルク櫟の森林がそこかしこにあります。Volubilisというローマ遺跡の世界遺産が北部にあるのですが、そうした遺跡がある地域にはオリーブ畑やブドウ畑がいたるところで広がり、古代の昔から地中海世界の一角を占めてきた歴史を感じとることができます。この3つの世界、いずれをとってもこの国の持つ豊かなアイデンティティの源になっていると考えています。

### 4. 番外編：ゴルファー天国

この国の主要都市周辺、観光地には必ずと言っていいほど少なからぬゴルフ場があり、非常によく整備され、気持ちよくプレーできるものが少なくありません。私が住んでいる首都ラバトにも前国王ハッサンII世がこよなく愛したと言われる素晴らしいゴルフ場があり、私も毎週末通っています。この原稿を書いている時点で駐在生活2年と少し。今まで10カ所ぐらいのゴルフ場でプレーしたでしょうか。果たして日本に帰国するまでにあと何

カ所行けるかチャレンジではあります。いや，健康管理のためですよ。あくまで健康管理のため・・・。



ラバトの王立ゴルフ場。



エルジャディダの海沿いのゴルフ場。

## 5. 番外編その2：涼しいモロッコ

この文章を書いているのは日本各地で35度超えが報じられる23年7月末。最近の日本，特に都市部の夏はむっとする暑さが夜も続き堪えがたいですが，モロッコは空気が乾燥しているので，日差しは強いですが日陰に入ればむしろ涼しいぐらい。たまに「灼熱の地モロッコ」のような感じで言われるようなことがあり，内陸部では夏の気温40度超えも珍しくないのですが，沿岸部は一年中温暖と冷涼の間を行き来しているような感じです。「酷暑の日本を離れ，モロッコで避暑」なんていうのも冗談抜きでありだと思えます。



筆者近影。ラバトのムハンマド5世廟にて。23年1月に撮影したもので，真冬でも日中はこんな服装で過ごせます。

如何でしたでしょうか。皆さんの期待をよい意味で裏切る内容になっていれば幸いです。

仕事でも観光でも、ぜひ一度お訪ねください。きつもっと新しい発見があることでしょう。

写真はすべて筆者提供